

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 青木卓磨

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学部ならびに大学院教育を担当しており、主に小動物臨床で、一般外科や手術に関する授業、実習と、循環器および呼吸器疾患を担当している。また、前述の臓器において産業動物も教育している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医外科学特論	獣医学科	—	1	5
産業動物臨床実習	獣医学科	必修	5	140
獣医内科学	獣医学科	必修	4	140
獣医外科学	獣医学科	必修	4	140
獣医外科学実習	獣医学科	必修	5	140
獣医放射線学実習	獣医学科	必修	5	140
小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医学科	必修	4	140
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	140
基礎・小動物獣医総合臨床Ⅱ	獣医学科	必修	4	140
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	6	140
卒業論文	獣医学科	必修	6	140
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	30

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学生には教科書やエビデンスに則った教育を実施している。一方で、小動物臨床には十分なエビデンスが揃わない事例も多く、未解決な点も多い。その場合は自身の経験談、他施設ならびに専門家の報告を紹介する、あるいは現時点で報告から考えられる最良の解決法と一緒に考えられるようにしている。臨床に関する知見は膨大であり、また毎年更新されるため、2～3年間の履修期間ですべてを体得することは不可能である。臨床の実例においても教科書通りにいかないことは多々ある。そのことから、問題にぶつかった場合には自ら調べ、対応する能力が必要となる。私は、学生には自分で調べるといった習慣を持ってほしいと感じており、昨今の一方的に情報を与えられるだけ、受けるだけの姿勢には疑問を持っている。そのため、問題解決のためにどのように調べるべきか、また論理的思考法を教え、問題があった場合にみずから積極的に調べ、対応出来る学生を育てたいと考えている。また、AIの活用も推奨している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教科書や論文を示すだけではなく、学生には実例をみてもらうことで、よりリアルな診療風景を思い浮かべてもらい、自分で疑問を持つチャンスを与えている。具体的には、実例をあげ、臨床徴候から推測される鑑別診断、臨床徴候や画像診断を含めた動画や写真などの提供、心雑音や肺の雑音など音源の提供を行い、手術であれば手術動画を短く編集して授業内で示している。また、獣医領域ではクライアントごとに治療法が異なることもあるため、クライアントの要望に沿った治療選択肢を複数示すことで、現場をリアルに想像してもらうよう指導している。実習中には、学生に積極的に質問し、回答させることで自ら考える能力を養わせている。麻布大学においても視覚優位の学生が増えているため、前述の通り、授業の資料には必ず動画を交えているが、その際には音などを含めることで、より現場が立体的に想像できるように試みている。教科書やガイドラインがある疾患に関しては、それらを自分で確認するよう指導している。ガイドラインは膨大な文書量からなるため、授業では贅肉をそぎ落とし、エッセンスだけを伝えざるをえない。しかしながら、本来はガイドラインを隅から隅まで読み、かつ自分が疑問に思う点があれば、参考文献から孫引きをしてその論文の精度も確認すべきである。そのことから、授業を聞くのみではなく、AIも活用しながらでよいので、ガイドラインを最低でも一読するように伝えている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

実施していない

(2) ICTの教育活用

有

実習中などに動画を確認できるようにタブレットを活用させている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

教科書に加え、実例を交えることで学生の興味を惹き、自分で調べるといった自主性を持たせるようにしている。実習中には学生に質問し、回答させることで考える力を養成している。

(2) 学生の理解度の把握

B

授業は復習できるように資料を分かりやすくまとめ、質問やメールなどへも積極的に回答している。実習中には、学生に積極的に質問し、回答させることで理解度を把握している。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

実例を示すことで臨床への興味を誘発し、少なくとも一度は自分で調べるように指導している。調べ始めると自分が分かっていないことに気付くため、自主性の養成に繋がると考えている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

実習などでは学生の手技を確認したり、質問を受けたりすることで一方通行とならないように気を付けている。

(5) 双方向授業への工夫

C

実習などでは学生の手技を確認したり、質問を受けたりすることで一方通行とならないように気を付けている。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去の国家試験問題から頻出する疾患や病態を調べ、授業中に出題頻度とその詳細を示している。また、画像や動画などを交え、視覚的理解が出来るような授業を実践している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

現時点では明らかな指摘はないが、毎回確認しており、必要に応じて授業に反映しようと思っている。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

学科会議にて、担当授業が学生から高い評価を得たことが報告された。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

前年度と同様に、学生が自分でも学びやすい資料作りを行う予定である。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

学生に興味を持たせることを最優先しており、自ら調べたいと感じる自主性こそが成績向上に必要と考えているため、すべての内容を一方的に伝えることはせず、情報を示し、その結果から自ら考え、自ら調べる余地を残すようにしている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

学生アンケートでは、授業が分かりやすいとのコメントがあった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学園の方針で診療時間が増え、かつ他の業務も年々増加することであまり参加できていなかったが、配信されている録画を確認するようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

人員不足と業務過多で現在は十分には取り組めないが、将来的に人員が補充された場合はより学生へ配布する資料をより分かりやすくしたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

学生アンケート等